

男子体操競技情報 26 号

(公財)日本体操協会
東京オリンピック強化本部
審判委員会体操競技男子審判本部

【目次】

1	はじめに	1
2	第 47 回世界体操競技選手権モンテリオール大会報告	2
3	平成 29 年度国内競技大会総括	14
4	2017 年 D スコアランキング	16
5	2017 年版採点規則修正、追加情報	20
6	2018 年度国内内規	25
7	タイ・ブレイク	27
8	おわりに	28
※	難度認定及び演技実施の確認事項と FIG 通達	別刷

1. はじめに

東京オリンピック男子体操競技強化本部
男子体操競技強化本部長 水鳥 寿思

日本の体操に関わっておられる審判の先生方、指導スタッフのみなさまにおかれましては日頃より体操の普及、強化にご尽力いただき誠にありがとうございます。そして、日本選手のためゆめぬ努力に対して感謝と敬意を表します。

2018 年は東京五輪に向けた予選競技会が始まる年であり、まさに東京五輪に向けた戦いが開始されます。昨年行われた世界選手権では内村選手が怪我のため途中棄権するというアクシデントにより、中国選手に個人総合チャンピオンの座を明け渡すこととなってしまいました。また、1 位のみならず 2 位にも中国選手がランクインし、さらに平行棒の新チャンピオンを育成するなど、その躍進は日本を凌ぐ勢いであり、東京五輪に際して最大の脅威であると言えます。そのような状況で白井選手の個人総合 3 位、種目別ゆか、跳馬の金メダルは日本にとって大きな希望でありましたが、現状を鑑みると早急に白井選手に続く選手を強化する必要があります。

東京五輪まで 2 年あまりとタイムリミットが迫るなか、最も重要なことのひとつとして、いかに現行ルールに適応し、効率的に高い評価を得られる演技を実施できるか、ということがあります。そのためにはまずルールを熟知し、その傾向と対策を分析し、具体的に選手の演技に反映させることが求められます。本資料はその道しるべとなる重要なものであると考えています。ぜひ熟読いただき、選手強化及び公平・公正な審判業務に役立てていただきたく存じます。

2. 第47回世界体操競技選手権モンリオール大会報告

体操競技男子審判本部
 本部長 高橋 孝徳
 本部員 笠松 昭宏

1. 派遣期間：2017年9月27日(水)～10月10日(火)
2. 開催地：カナダ モントリオール
3. 会場：Olympic Park Stadium
 4141, avenue Pierre-de Coubertin, Montreal, Québec. Canada, H1V 3N7
4. 審判員：高橋 孝徳 (体操競技男子審判本部本部長)
 笠松 昭宏 (体操競技男子審判本部本部員)
5. 日程：大会スケジュール

9月	27日	(水)	出国 男子FIG技術委員・D審判会議
	28日	(木)	男子審判会議・抽選 (CI、CII)
	29日	(金)	男子ポディウムトレーニング (1班～3班)
	30日	(土)	男子ポディウムトレーニング (4班) 女子ポディウムトレーニング (1班～2班)
	1日	(日)	女子ポディウムトレーニング (3班～5班)
	2日	(月)	開会式 男子予選 (1班～3班) ※日本3班
	3日	(火)	男子予選 (4班) 女子予選 (1班～2班)
	4日	(水)	女子予選 (3班～5班)
	5日	(木)	男子個人総合決勝
	6日	(金)	女子個人総合決勝
	7日	(土)	種目別決勝 男子 FX、PH、SR 女子 VT、UB
	8日	(日)	種目別決勝 男子 VT、PB、HB 女子 BB、FX
	9日	(月)	出国
	10日	(火)	帰国

6. 参加状況：65カ国 (計394名 男子242名 女子152名)

1) 種目別演技実施数

6種目：59名

ゆか：124名

あん馬：132名

つり輪：113名

跳馬：45名 (2本実施)

平行棒：123名

鉄棒：124名

7. 審判会議報告：

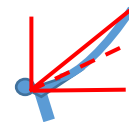
各種目とも前ルールから変更になった箇所、減点項目の確認や注意点が挙げられた。以下は各種目で取り上げられた減点項目。

□ ゆ か

- 1) 十字倒立の高さ、持ち込み方について
 - ・特に高さについては厳しく対処
- 2) ひねりについて
 - ・ひねり不足の減点を実施にあわせ明確に。
 - ・連続技の一つ目の着地姿勢についても取り上げ、減点の対象となるとのこと
- 3) 着地準備について
 - ・準備局面の見られる着地かどうか。余裕のない捌きは実施により0.1 or 0.3の減点
- 4) コントロールされていない着地
 - ・止めないで、次の動作に移る捌きは減点の対象。
 - プレ五輪でのBEHAN Kieran選手 (IRL) の演技で説明。
- 5) 空中での脚の開き
 - ・2回宙返りでの脚われを開き度合いによって減点 0.1 or 0.3
- 6) 着地でのジャンプ正面支持臥
 - ・0.5の減点
 - 南寧世界選手権CIIIでのZAPATA SANTANA 選手 (ESP) の演技で説明。

□ あん馬

- 1) 交差倒立系の技
 - ・脚の高さ (特に交差倒立前後での片足技の抜き入れでも低い捌きは0.1 or 0.3の減点)
- 2) 姿勢
 - ・腰まがりが見られる度に0.1の減点 (元々そのような姿勢の場合は減点なし)
- 3) 縦向き旋回での角度減点
 - ・移動開始から技の成立時まで、手一つ分は0.1、より大きく左右の手がずれている場合は0.3の減点
 - ※今まで以上に明確に対処
- 4) 旋回中での脚の開きについて
 - ・脚の開きがあれば、その都度減点
- 5) 倒立を経過する終末技
 - ・あげ方での力の使用、腕まがり、倒立にはまらない場合の減点について
- 6) ロシアンから下向き転向下的姿勢
 - ・反らずに、45度以上に上げることが大事。
 - 右の挿絵の場合、つま先は45度に達しているが、肩から腰の延長線が角度としては達していないと判断される。



□ つり輪

- 1) ホンマ十字懸垂の持ち込み方において、肩の高さが45度以上高い実施の場合、その後、十字懸垂を止めたとしても不認定となる。
- 2) 開脚水平支持での静止ポジションにおいて
 - ・身体が水平かどうか、脚が水平かどうか

腰まがりの減点	~15° : -0.1	16° ~30° : -0.3°
	30°を超える : -0.5	45° を超える : -0.5&不認定

 - ・水平支持が取り上げられ、説明
 - 腰まがり・・・まっすぐでも下半身が水平でなければ減点
 - 振り上がりからの持ち込み時での腕まがり 相応の減点

- 3) 静止時間について
 - ・水平支持、中水平支持
 - 停滞、脚が収まらないで動いている状態はカウントしない
- 4) 伸身姿勢の終末技
 - ・手を放した瞬間、途中、着地目のいずれかで、もしくはすべてで腰がまがると減点。
- 5) E採点練習で、2014年世界選手権南寧大会での田中佑典選手の演技が取り上げられ、減点0.7~0.9しかない良い実施として紹介された。

□ 跳馬

- 1) 第1空中局面
 - ・脚の開き
- 2) 第2空中局面
 - ・脚の開き、つま先の乱れ
- 3) ひねり不足についても厳密に対処
- 4) 着地準備と着地

□ 平行棒

- 1) スイングからの倒立（棒下宙返り倒立など）
 - 以下の減点項目を伝達
 - ①腕のまがり
 - ②姿勢
 - ③倒立位からの角度逸脱
 - ④手のずらし、握り替え、ステップ
 - ⑤コントロールされているか
 - ⑥ダブルスイング ex)ヒールからスイング倒立、止まらず振り下ろしは 0.3 の減点
- 2) 宙返り後の処理
 - ・身体の伸ばし、コントロールがされているか
- 3) バブサーでのバーを持つ際の体勢
 - ・身体の位置が水平位からの外れや肩角度がある実施は減点、45° 以上の逸脱は不認定
- 4) シャルロタイプ
 - ・単棒倒立での静止をしっかりと見せること
- 5) モイや車輪倒立系での膝のまがり
 - ・水平より上からの膝まがりの場合は減点 0.1、倒立位からの場合 0.3 の減点
- 6) 前方屈身宙返り開脚抜き（腕）支持で脚がバーの外を通っていない場合：無価値な開脚-0.3
- 7) 前振り上がり：小さい捌きは相応の減点
- 8) 静止技の静止時間
 - ・脚前挙支持や力倒立などの静止時間は 2 秒静止しなければ 0.3 の減点
- 9) 終末技
 - ・高さ、着地準備、着地

□ 鉄棒

- 1) 倒立位からの外れの減点（ルール通り）
- 2) ひねりを伴う技での倒立位からの外れの減点（ルール通り）
- 3) 腕のまがり
 - ・手放し技の前後やその後の車輪での腕まがりも相応の減点

- 4) クースト
 ・ひねり不足、高さ、角度逸脱
 ※内村選手の映像は減点なしで紹介
- 5) 終末技
 「伸身 2 回宙返り 1 回ひねり」での姿勢
 腰まがり、手を放した瞬間、途中、着地前または全経過でまがっている実施への減点

8. 新技申請：以下が申請された。

- ゆか
 ・ Endo roll to Japanese handstand エンドロール十字倒立：C 難度(I)
 Severin Kranzmueller(AUT)
- あん馬
 ・ DSA 直接背面とび横移動倒立 3/3 部分移動 1 回ひねり、下ろして開脚旋回：G 難度(II)
 ・ 馬端外向き縦向き旋回からロシアン 360° 転向移動(3/3 移動)：D 難度(III-82 同枠)
 ・ 下向き正転向移動(馬端縦向きから把手に着手～馬端縦向き)：C 難度(III-75 同枠)
 ・ 縦向きとび後ろ移動 (馬端～馬端)：E 難度(III)
 Nariman Kurbanov(KAZ)
- つり輪
 ・ ゆっくりと伸腕伸身で前に回り中水平支持：E 難度(II)
 Pham Phuoc Hung(VIE)
- 跳馬
 ・ 前転とび前方かかえ込み 2 回宙返り 1 回ひねり：(I) 6.0
 Audrys Nin Reyes(DOM)
- 平行棒
 ・ 前振り上がり開脚抜き懸垂：C 難度(II)
 Andrei Vasile Muntean(ROU)
- 鉄棒
 ・ ゲイロード 1 回ひねり：G 難度(II)
 Mikhail Koudinov(NZL)
 ・ 伸身ブレードシュナイダー：I 難度(II)
 MIYACHI Hidetaka(JPN)

9. 審判団：

◆ 参加審判

56 カ国 93 名

D 審判：12 カ国 12 名 R 審判：12 カ国 12 名 E 審判：64 カ国 69 名

1 カ国複数名派遣国：35 カ国

◆ D 審判団

FX	D1: VUKOJA Mario (CRO)	D2: SOUSA Alvaro (POR)
PH	D1: GAZIT Ilan (ISR)	D2: ANDREEV Dimitry (RUS)
SR	D1: LAZZARICH Diego (ITA)	D2: PROVIAS Nikolaos (GRE)
VT	D1: NANKOE Raymond (NED)	D2: TOTH Josef (AUT)
PB	D1: BANGO Benjamin (ESP)	D2: THINGVOLD Tom (NOR)
HB	D1: ZUNICH Butch Andreja (USA)	D2: HAN Yoon Soo (KOR)

◆ 抽選結果

- 予選 平行棒 E1 笠松昭宏
- 個人総合決勝 平行棒 E3 高橋孝徳
- 種目別決勝 あん馬 E4 笠松昭宏

◆ 審判席配置について

試合会場の審判配置は、2015年世界選手権グラスゴー大会と同様にアリーナ端、観客席前に一列に設置されたレイアウトであった。2018年、2019年の世界選手権も同様のレイアウトになるとの情報であった。

10. 結果：

□ 日本選手予選結果

個人総合	白井 健三	85.697	4位 予選通過
	内村 航平		途中棄権
ゆか	白井 健三	15.766	1位 予選通過
	谷川 航	13.166	57位
あん馬	亀山 耕平	14.066	17位
	白井 健三	13.233	39位
つり輪	谷川 航	14.433	15位
	内村 航平	14.000	32位
	白井 健三	13.766	43位
跳馬	白井 健三	14.949	2位 予選通過
	安里 圭亮	14.716	4位 予選通過
平行棒	谷川 航	14.733	11位
	白井 健三	14.666	13位
	内村 航平	14.033	30位
鉄棒	宮地 秀亨	13.966	8位 予選通過
	白井 健三	13.033	35位

□ 個人総合予選

Rk.	Gymnast	NF	FX	PH	SR	VT	PB	HB	Total
1	Larduet M	CUB	14.466	14.200	14.200	14.900	15.200	13.733	86.699
2	Xiao Ruoteng	CHN	14.166	14.866	13.933	14.766	14.800	13.766	86.297
3	Belyavskiy D	RUS	13.933	14.666	14.133	13.833	15.066	14.208	85.839
4	白井 健三	日本	15.766	13.233	13.766	15.233	14.666	13.033	85.697
5	Verniaiev Oleg	UKR	13.233	14.733	13.800	14.833	15.466	13.366	85.431
6	Lin Chaopan	CHN	14.100	13.833	13.783	14.333	15.000	13.466	84.515
7	Moldauer Yul	USA	14.700	13.066	14.300	14.566	14.633	13.066	84.331
8	Wilson Nile	GBR	14.133	12.900	14.200	14.466	14.200	13.933	83.832

□ 個人総合決勝

Rk.	Gymnast	NF	FX	PH	SR	VT	PB	HB	Total
1	Xiao Ruoteng	CHN	14.433	14.800	13.800	14.900	14.600	14.400	86.933
2	Lin Chaopan	CHN	14.516	14.266	13.666	14.900	14.800	14.300	86.448
3	白井 健三	日本	15.733	13.433	13.666	15.000	14.633	13.966	86.431
4	Belyavskiy D	RUS	14.066	14.900	14.100	14.783	15.266	13.200	86.315
5	Larduet M	CUB	13.933	13.733	14.133	14.966	14.933	14.333	86.031
6	Wilson Nile	GBR	14.333	13.666	14.300	14.100	14.500	14.433	85.332
7	Moldauer Yul	USA	14.566	14.000	14.066	14.500	14.533	13.333	84.998
8	Verniaiev Oleg	UKR	13.766	13.333	14.566	14.833	14.966	12.533	83.997

□ 種目別決勝

◇ゆか

Rk.	Gymnast	NF	D-Score	E-Score	Pen.	Total	予選 D
1	白井 健三	日本	7.20	8.433		15.633	7.20
2	Dolgopyat Artem	ISR	6.50	8.033		14.533	6.50
3	Moldauer Yul	USA	5.80	8.700		14.500	5.80
4	Verhofstad Bram	NED	6.10	8.233		14.333	6.10
5	Gonzalez Tomas	CHI	6.00	8.266		14.266	6.20
6	Whittenburg Donnell	USA	6.40	7.766		14.166	6.40
7	Larduet Manrique	CUB	6.00	8.100		14.100	6.00
8	Kim Hansol	KOR	6.40	7.700		14.100	6.40
9	Karimi Milad	KAZ	6.10	7.166		13.266	6.10

◇あん馬

Rk.	Gymnast	NF	D-Score	E-Score	Total	予選 D
1	WHITLOCK Max	GBR	6.90	8.541	15.441	6.80
2	BELYAVSKIY David	RUS	6.40	8.700	15.100	6.40
3	XIAO Ruoteng	CHN	6.40	8.666	15.066	6.10
4	NADDOUR Alexander	USA	6.30	8.450	14.750	6.40
5	MERDINYAN Harutyun	ARM	6.20	8.500	14.700	6.20
6	WENG Hao	CHN	6.00	8.500	14.500	6.50
7	VERNIAIEV Oleg	UKR	6.40	7.300	13.700	6.60
8	BERTONCELJ Saso	SLO	6.00	6.966	12.966	6.10

◇つり輪

Rk.	Gymnast	NF	D-Score	E-Score	Total	予選 D
1	PETROUNIAS Eleftherios	GRE	6.30	9.133	15.433	6.30
2	ABLIAZIN Denis	RUS	6.30	9.033	15.333	6.30
3	LIU Yang	CHN	6.30	8.966	15.266	6.30
4	AIT SAID Samir	FRA	6.20	9.058	15.258	6.20
5	COLAK Ibrahim	TUR	6.20	8.866	15.066	6.20
6	RADIVILOV Igor	UKR	6.30	8.633	14.933	6.30
7	ZANETTI Arthur	BRA	6.20	8.700	14.900	6.20
8	TULLOCH Courtney	GBR	6.40	8.133	14.533	6.40

◇跳馬

Rk.	Gymnast/NF	D-Score	E-Score	Pen.	Score	Total	予選 D
1	白井 健三 日本	5.60	9.600		15.200	14.900	5.60
		5.20	9.400		14.600		5.20
2	RADIVILOV Igor UKR	5.60	9.166		14.766	14.899	5.60
		5.60	9.433		15.033		5.60
3	KIM Hansol KOR	5.60	9.366		14.966	14.766	5.60
		5.20	9.366		14.566		5.20
4	DRAGULESCU Marian ROU	5.60	9.100		14.700	14.716	5.60
		5.40	9.333		14.733		5.20
5	VEGA LOPEZ Jorge GUA	5.60	9.200	-0.10	14.700	14.704	5.60
		5.20	9.508		14.708		5.20
6	安里 圭亮 日本	6.00	8.866	-0.10	14.766	14.349	6.00
		5.60	8.333		13.933		5.60
7	HRIMECHE Zachari FRA	5.60	8.166	-0.20	13.566	14.083	5.60
		5.60	9.000		14.600		5.60
8	DALALOYAN Artur RUS	5.60	8.900	-0.30	14.200	13.966	5.60
		5.60	8.133		13.733		5.60

◇平行棒

Rk.	Gymnast	NF	D-Score	E-Score	Total	予選 D
1	ZOU Jingyuan	CHN	6.80	9.100	15.900	6.60
2	VERNIAIEV Oleg	UKR	6.70	9.133	15.833	6.70
3	BELYAVSKIY David	RUS	6.40	8.866	15.266	6.40
4	LARDUET Manrique	CUB	6.40	8.766	15.166	6.40
5	LIN Chaopan	CHN	6.40	8.733	15.133	6.40
6	BRAEGGER Pablo	SUI	6.40	8.333	14.733	6.40
7	NGUYEN Marcel	GER	6.20	8.500	14.700	6.50
8	ARICAN Ferhat	TUR	6.30	7.800	14.100	6.30

◇鉄棒

Rk.	Gymnast	NF	D-Score	E-Score	Total	予選 D
1	SRBIC Tin	CRO	6.40	8.033	14.433	6.40
2	ZONDERLAND Epke	NED	6.50	7.733	14.233	6.50
3	DEURLOO Bart	NED	6.20	8.000	14.200	6.10
4	BRAEGGER Pablo	SUI	6.50	7.233	13.733	6.80
5	宮地 秀亭	日本	6.70	7.033	13.733	6.20
6	BELYAVSKIY David	RUS	5.40	8.133	13.533	5.80
7	LERU Randy	CUB	6.00	7.100	13.100	6.20
8	HEGI Oliver	SUI	5.80	6.933	12.733	6.20

□ 日本選手種目別決勝成績

ゆか	白井 健三	15.633	1位	金メダル
跳馬	白井 健三	14.900	1位	金メダル
	安里 圭亮	14.349	6位	
鉄棒	宮地 秀亭	13.733	5位	

		1位	2位	3位	合計
1	CHN	2	1	2	5
2	JPN	2		1	3
3	GBR	1			1
4	GRE	1			1
5	CRO	1			1
6	RUS		2	1	3
7	UKR		2		2
8	NED		1	1	2
9	ISR		1		1
10	USA			1	1
11	KOR			1	1

	1位	2位	3位
個人総合	CHN	CHN	日本
ゆか	日本	ISR	USA
あん馬	GBR	RUS	CHN
つり輪	GRE	RUS	CHN
跳馬	日本	UKR	KOR
平行棒	CHN	UKR	RUS
鉄棒	VRO	NED	NED

11. 所 感：

個人総合では、白井健三選手が得意のゆかと跳馬で得点を稼ぎ、他種目でもミスを最小限におさえ、予選の4位から順位を上げて銅メダルを獲得した。内村航平選手をけがで欠いた決勝で、日本チームの面目を保つことができた。

今回、内村選手の負傷により多くの選手が優勝を狙える状況となった。優勝候補として、1位通過の LARDUET Manrique 選手 (CUB)、リオ五輪2位の Verniaiev Oleg 選手 (UKR) が有力であった。しかし、2名とも安定感にかけ、着地の乱れや落下などから E スコアが伸びず優勝争いから一步後退した結果であった。ロシアの NAGORNYI Nikita 選手、BELYAVSKIY David 選手は素晴らしい実施で優勝争いに絡んでいたが、両名とも鉄棒の落下があり、優勝争いから脱落した。優勝は Xiao Ruoteng 選手、2位には Lin Chaopan 選手と中国勢が1、2位を占めた。2名とも大きなミスなく安定した演技であった。

上位8名の D スコア (表1) では、Verniaiev 選手が 36.70 とひとり 36 点後半の高いスコアで、前ルールと同様、難易度の高い演技構成である。上位陣の得点から今後は 36 点台の D スコアを構成することが、メダル争いには必要であると予想される。

(表1) 個人総合決勝進出者上位8名 D スコア (上位8名のみ抽出)

Rk.	Gymnast	NF	FX	PH	SR	VT	PB	HB	Total	個人総合
1	Verniaiev Oleg	UKR	6.20	6.40	6.10	5.60	6.70	5.70	36.70	8
2	Larduet M	CUB	6.00	5.70	6.10	5.60	6.40	6.10	35.90	5
3	Lin Chaopan	CHN	6.20	5.80	5.60	5.60	6.40	6.20	35.80	2
4	白井 健三	日本	7.20	5.30	5.70	5.60	6.00	5.90	35.70	3
5	Xiao Ruoteng	CHN	5.90	6.10	5.70	5.60	6.00	6.00	35.30	1
6	Belyavskiy D	RUS	5.90	6.30	5.50	5.60	6.40	5.60	35.30	4
7	Wilson Nile	GBR	5.60	5.80	5.70	5.20	6.30	6.20	34.80	6
8	Moldauer Yul	USA	5.80	5.40	5.70	5.20	6.00	5.30	33.40	7

E スコアは前ルール以上に厳密に採点され、さらにはルールに則り機械的に減点されていく傾向が強まったため、全体的には今まで以上に得点が伸びないスコアであった。ただし種目によっては、素晴らしい実施には今まで以上に高い評価が出される傾向も見られた。

個人総合決勝での上位 8 名の E スコアを順に並べると表 2 のようになり、上位 3 名が 51 点台を獲得した。金メダルの Xiao R 選手は D スコアがそれほど高くはないものの E スコアは最も高く、安定した演技であったことが見受けられる。

Belyavskiy D 選手は鉄棒で落下しているため、仮にここの落下減点がなければ 52 点台となり、質の高さが今後の脅威となる。

白井選手を含む 5 選手に 7 点台のスコアがみられた。全ての種目において、演技が安定しなかった、または弱点種目があることが伺える。今後メダル争いや上位に食い込むには、D スコアの向上とともに、E スコアをどのように高めるかが重要な鍵となる。

(表 2) 個人総合決勝進出者上位 8 名 E スコア (上位 8 名のみ抽出)

Rk.	Gymnast	NF	FX	PH	SR	VT	PB	HB	Total	個人総合
1	Xiao Ruoteng	CHN	8.533	8.700	8.100	9.300	8.600	8.400	51.633	1
2	Moldauer Yul	USA	8.766	8.600	8.366	9.300	8.533	8.033	51.598	7
3	Belyavskiy D	RUS	8.266	8.600	8.600	9.183	8.866	7.600	51.115	4
4	Lin Chaopan	CHN	8.416	8.466	8.066	9.300	8.400	8.100	50.748	2
5	白井 健三	日本	8.533	8.133	7.966	9.400	8.633	8.066	50.731	3
6	Wilson Nile	GBR	8.733	7.866	8.600	9.000	8.200	8.233	50.632	6
7	Larduet M	CUB	7.933	8.033	8.033	9.366	8.533	8.233	50.131	5
8	Verniaiev Oleg	UKR	7.666	6.933	8.466	9.233	8.266	6.833	47.397	8

種目別決勝においては、白井選手がゆかと跳馬で圧巻の演技で金メダルを獲得した。ほかの日本選手も果敢に攻めた演技を披露してくれたが、ミスや D スコアの差によりメダル獲得には至らなかった。

ゆかでは、白井選手が 15.633 をマークし 2 位との差を 1 点以上つけて金メダルを獲得した。この得点は高い D スコアがベースとなっていることは言うまでもない。今回の結果からは、他の決勝進出者の D スコアに対して大きなアドバンテージがあるように見られるが、予選ではロシアの NAGORNYIY 選手が 6.7 の D スコアを獲得するなど、今後肉迫してくる選手も潜んでいることを忘れてはならない。今回、NAGORNYIY 選手は大きなミスを連発し得点を伸ばすことができなかったが、演技がまとまればメダル争いに加わることが予想される。アメリカの Moldauer Yul 選手は、E スコアが 8.70 と最も高く、安定した着地や演技実施の質の高さを披露した。今回、大会全体に厳しい採点となったが、ミスのない演技には、相応の得点が出されることを証明した実施であった。

あん馬は WHITLOCK Max 選手 (GBR) が D スコア 6.9 の演技構成を実施し優勝した。2 位 BELYAVSKIY 選手の D スコアは 6.4 であったが、E スコアを 8.70 と伸ばし、質の高い演技を披露した。評価の傾向として、上下に揺れ動く旋回は厳しく減点され、得点が伸びないと感じた。一方、しなやかさがなく硬い演技でも、最初から最後まで一定のスピードで演技が経過する実施は減点が少なく得点が伸びる傾向であった。

つり輪の決勝進出者の D スコアは 6.4 が 1 名、6.3 が 4 名、6.2 が 3 名であった。他種目と比較して、D スコアの差が少なく、順位争いは実施内容に委ねられる割合が高い。E スコアは PETROUNIAS Eleftherios 選手 (GRE) の 9.133 を筆頭に 3 名の選手が 9 点台であった。上位選手のグループ II、III の力技の捌きはより力強く、洗練された実施となっており、減点箇所が見当たらない捌きが増えてきている。今後は更に細かい部分での捌き方や表現の仕方などが、序列に影響

してくると予想される。そうなった場合は、一定ラインの領域に達していない演技実施はさらに厳しい採点になることが考えられる。

跳馬は、白井選手がゆかに続き二つ目の金メダルを獲得した。着地での腰の位置は他の選手と比較し高い位置での姿勢であり、的確に評価されていた。2位となった RADIVILOV Igor 選手(UKR)とは僅か 0.001 の差であり、どちらの選手が優勝してもおかしくない素晴らしい実施であった。RADIVILOV 選手の一本目のドラグレスクは着地まで決める素晴らしい実施であったが、宙返りでの脚の開きが大きく、姿勢に対する減点が適切にされていた。

安里圭亮選手は果敢に攻めた実施であったが、着地での姿勢が低くなってしまい、大きな減点がされていた。得点の傾向として、どんなに雄大な実施であっても、姿勢欠点、着地の不安定さが見られれば、厳しく採点されるという、ルール通りの評価であった。

平行棒は、ZOU Jingyuan 選手(CHN)とリオデジャネイロオリンピック種目別金メダルの VERNIAIEV 選手の演技に注目が集まった。D スコアは ZOU 選手が 6.8、VERNIAIEV 選手が 6.7 と高く、その上 E スコアも 9 点台という素晴らしい実施であった。上位陣をしてみると、倒立におさめた時の安定性、握りなおしなどの不要な動きは見られず、動と静の表現が明確である印象であった。

終末技に前方 2 回宙返り系の技を実施する選手が増えたが、空中での脚開き、着地でのゆがみや姿勢の低さなど、いまだ減点の多い実施がほとんどであった。しかし、実施し続けることにより、安定性が増すことは容易に想像できる。日本選手も出遅れることなく、チャレンジしてもらいたい。

鉄棒は 8 点台が 3 名のみと依然として E スコアが伸びない種目であった。ひねり系の技での角度の減点に加え、手放し技実施後の処理や姿勢欠点、終末技での空中局面や着地など、まだまだ改善されるべき実施が多く感じた。

宮地秀亭選手の伸身ブレードシュナイダーは大いに注目され、成功裡に発表することができたことは称賛に値することであった。新技として認定され、男子初の I 難度となった。

予選から通して、手放し技で落下した後、すぐに立たずに時間稼ぎをする選手が複数見られた。FIG としても問題視したが、ルールを逆手に取る行為であり、見ていて不快に感じる観客も多くいるようであった。

今回、2017 年版ルールが適用され、技の認定、減点の度合いはどの程度の基準なのか、注視した。技の認定に関しては条件が付随されたもの以外では、大きな変化はない印象であった。一方、E スコアはルールが厳密に適用され、正確な実施からの逸脱は技の難易度に関係なく減点される印象であった。

世界の動向では、中国、ロシアの成長が著しく、大きな脅威を感じた。2 か国の演技のうち、ミスのため得点が伸びない実施も散見されたが、修正が可能であることは間違いなく、2018 年世界選手権、さらには 2020 年東京五輪でのメダル争いの強力なライバルとなる存在であると強く感じた。

種目別に関しては、種目に特化した選手や若手選手の起用など戦略を講じなければ、決勝進出やメダル争いは厳しくなるであろう。

今回、日本選手は世界選手権初出場者が多かったが、結果とは別に大きな刺激や課題を与えられた印象を強く感じた。

出場した選手ばかりでなく、全ての日本選手が次の舞台を目指し、切磋琢磨し成長を期待したい。

12. 種目別上位者の演技構成

◆ ゆ か

1. 白井 健三 (JPN) 15.633 D7.20 E8.433

後方伸身宙返り 3 回ひねり(H)、後方かかえ込み 2 回宙返り 3 回ひねり (G)、後方伸身宙返り 5/2 ひねり～前方伸身宙返り 5/2 ひねり(D+E)、前方かかえ込み宙返り 1 回ひねり～前方伸身宙返り 3 回ひねり(B+F)、倒立から伸膝前転脚前挙支持経過倒立 (C)、後方伸身宙返り 7/2 ひねり～前方伸身宙返り 1 回ひねり(E+C)、後方伸身宙返り 4 回ひねり(F)

2. DOLGOPYAT Artem (ISR) 14.533 D6.50 E8.033

前方かかえ込み 2 回宙返り 3/2 ひねり(G)、前方伸身宙返り 1 回ひねり～前方伸身宙返り 5/2 ひねり(C+E)、後方伸身宙返り 4 回ひねり(F)、後方伸身宙返り 5/2 ひねり～前方伸身宙返り 2 回ひねり(D+D)、後方伸身宙返り 3/2 ひねり～前方伸身宙返り 3/2 ひねり(C～C)、ロシアン 1080° 転向(C)、後方伸身宙返り 3 回ひねり(D)

3. MOLDAUER Yul (USA) 14.500 D5.80 E8.700

前方伸身宙返り 5/2 ひねり(E)、後ろとびひねり前方かかえ込み 2 回宙返りひねり(D)、前方伸身宙返り 2 回ひねり～前方伸身宙返り 1 回ひねり(D+C)、開脚旋回 270° ひねり直接倒立・下ろして開脚旋回(D)、ゴゴラーゼ(C)、後方伸身宙返り 5/2 ひねり～前方伸身宙返りひねり(D+B)、後方伸身宙返り 2 回ひねり(C)、後方伸身宙返り 3 回ひねり(D)

◆ あん馬

1. WHITLOCK Max (GBR) 15.411 D6.90 E8.541

逆交差倒立(D)、F コンバイン(F)、E フロップ(E)、ブスナリ(F)、馬端縦向き旋回 1 回ひねり(D)、開脚旋回 3/3 前移動(E)、開脚旋回 3/3 後ろ移動(E)、ウ・グォニアン(E)、ロシアン 1080° 転向(D)、ループ倒立 450° ひねり 3/3 移動下り(E)

2. BELYAVSKIY David (RUS) 15.100 D6.400 E8.700

正交差倒立(D)、ショーン(E)、E コンバイン(E)、ウ・グォニアン(E)、ロス(D)、馬端縦向き旋回 1 回ひねり(D)、E フロップ(E)、マジヤール(D)、シバド(D)、ループ倒立 270° ひねり 3/3 移動下り(E)

3. XIAO Ruoteng (CHN) 15.066 D6.40 E8.666

馬端縦向き旋回 1 回ひねり(D)、トンフェイ(D)、E フロップ(E)、ブスナリ(F)、逆交差倒立(D)、D コンバイン(D)、ロシアン 1080° 転向(D)、マジヤール(D)、シバド(D)、ループ倒立 450° ひねり 3/3 移動下り(E)

◆ つり輪

1. PETROUNIAS Eleftherios (GRE) 15.433 D6.30 E9.133

ヤン・ミンヨン(E)、ゆっくり後方伸腕伸身逆上がり中水平支持(F)、後ろ振り上がり中水平支持(E)、後方車輪倒立(C)、後ろ振り上がり水平支持(D)、ナカヤマ(D)、ホンマ十字懸垂(D)、ジョナサン(D)、前方車輪倒立(C)、後方かかえ込み 2 回宙返り 2 回ひねり下り(E)

2. ABLAZIN Denis (RUS) 15.333 D6.30 E9.033

ヤン・ミンヨン(E)、ゆっくり後方伸腕伸身逆上がり中水平支持(F)、後方け上がり中水平支持(E)、ヤマワキ(C)、ジョナサン(D)、後ろ振り上がり水平支持(D)、アザリアン (D)、後ろ振り上がり倒立(C)、後方車輪倒立(C)、後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り(F)

3. LIU Yang (CHN) 15.266 D6.30 E8.966

ゆっくり後方伸腕伸身逆上がり中水平支持(F)、バランディン 2 (F)、ジョナサン(D)、ホンマ十字懸垂(D)、十字懸垂から引き上げ水平支持 (D)、ヤマワキ(C)、後ろ振り上がり中水平支持(E)、ナカヤマ(D)、後ろ振り上がり倒立(C)、後方伸身 2 回宙返り 1 回ひねり下り(D)

◆ 跳 馬

1. 白井 健三(JPN) 14.900
 1 本目：シライ／キム・ヒフン 15.200 D5.60 E9.600
 2 本目：ドリッグス 14.600 D5.20 E9.400
2. RADIVILOV Igor (UKR) 14.899
 1 本目：ドラグレスク 14.766 D5.60 E9.166
 2 本目：ルー・ユーフ 15.033 D5.60 E9.433
3. KIM Hansol (KOR) 14.766
 1 本目：ヨ一2 14.966 D5.60 E9.366
 2 本目：ドリッグス 14.566 D5.20 E9.366

◆ 平行棒

1. ZOU Jingyuan (CHN) 15.900 D6.80 E9.10
 ソラキデイス(G)、ヒーリー(D)、リチャード(E)、後方車輪倒立(C)、棒下宙返りひねり倒立(E)、棒下宙返り倒立(D)、前方開脚宙返り支持直接懸垂(E)、バブサー (E)、ティップペルト(D)、前方かかえ込み 2 回宙返りひねり下り(F)
2. VERNIAIEV Oleg (UKR) 15.866 D6.70 E9.133
 後振り上がり前方宙返り支持(D)、棒下宙返りひねり倒立(E)、シャルロ(E)、単棒倒立からヒーリー(E)、マクーツ(E)、ティップペルト(D)、バブサー (E)、ヒーリー(D)、ピーターズ(D)、前方かかえ込み 2 回宙返りひねり下り(F)
3. BELYAVSKIY David (RUS) 15.266 D6.40 E8.866
 棒下宙返り倒立(D)、リチャード (E)、前振り上がりひねり倒立(E)、ティップペルト(D)、バブサー(E)、後ろ振り上がり前方宙返り支持(D)、ヒーリー(D)、ピーターズ(D)、前振りひねり倒立(C)、前方かかえ込み 2 回宙返りひねり下り(F)

◆ 鉄 棒

1. SRBIC Tin (CRO) 14.433 D6.40 E8.033
 前方車輪 1 回ひねり大逆手(C)、シュタルダーとび 3/2 ひねり大逆手(E)、トカチェフ～伸身トカチェフ～リンチ(C+D+D)、アドラーひねり倒立(D)、モズニク(E)、アドラー1 回ひねり逆手倒立(E)、エンドー1 回ひねり大逆手(D)、後方伸身 2 回宙返り 1 回ひねり下り(D)
2. ZONDERLAND Epke (NED) 14.233 D6.50 E7.733
 エンドー1 回ひねり大逆手(D)、前方車輪ひねり倒立(A)、カッシーナ～コバチ(G+D)、伸身コバチ(E)、コールマン(E)、シュタルダー3/2 ひねり片大逆手(D)、アドラーひねり(D)、クースト(C)、後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り(E)
3. DEURLOO Bart (NED) 14.200 D8.00 E6.200
 アドラー1 回ひねり片逆手(D)、アドラーひねり倒立(D)、コバチ～カッシーナ(D+G)、コールマン(E)、ヤマワキ(D)、エンドーひねり(B)、シュタルダー(B)、クースト(C)、後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り(E)

3. 2017年国内競技会（全日本個人総合・種目別・団体選手権、NHK杯）総括

□ ゆか

ルールの改訂により2回宙返りを演技に組み込む必要が生じた。Dスコア向上のためには高難度の技を実施する方が有利であるため、前方かかえ込み2回宙返りや後方かかえ込み2回宙返り2回ひねりにトライする選手が増えた。演技のバリエーションが増えたこと、今後のビッグタンブリングへの可能性を覗かせたことでは良い傾向であった。しかしながら、前方2回宙返りで着地を止めた選手は少なく、多くは小・中欠点、中には尻もちや転倒も散見された。

また対角線のタンブリング使用の連続に制限がなくなり、3～4本続けて行う選手が増えた。Dスコアを上げるためには仕方がないことであろうが、コーナーでの動きが味気ないものになる傾向も見られた。タンブリングが多くなる分、着地減点も増えてしまい必然とEスコアは伸び悩んだ。

前方伸身宙返りひねりで腰の角度に逸脱がある実施に対しては、屈身で判定した。同様に前方伸身宙返り1回ひねりで、膝まがりが見られる場合はかかえ込みで判定した。

開脚座から十字倒立に持ち込む際、足先が床面を押して体を上げた場合、立位からの十字倒立としてB難度と認定した。

□ あん馬

交差倒立系の技については、実施が改善されたものとそうでないものの格差が広がり二極化したように感じた。不成立のリスクを最小限にするため、腰まがりや力の使用による減点を伴っても確実な成功を目指した実施が多かったと思われる。

また、転向技や転向移動系の技、シュピンドル系の技を増やして、縦向き移動系を回避する構成を組む選手も見られた。しかしながら、馬端縦向きのシュピンドルは旋回の大きさ不足、リズム不調、ひねり不足が見られ、Eスコアを高めることにはつながらなかった。

「1回の旋回で正面横移動」で把手を持った状態から開始した場合、難度がDからCに下がったため、実施数は減少した。逆に増加傾向が見られたのはロスとトンフェイであった。とりわけロスについては上位選手のほとんどが組み入っていた。それらは技そのものよりも、完了後に続く技へいかに減点なくつなげていけるかがポイントになると感じられた。

開脚旋回による馬端から馬端への前移動・後ろ移動の実施が新たな技として徐々に増加の傾向にある。ただし、その実施は良し悪しの差が見られた。

□ つり輪

今年度、「安定した演技実施を基礎に、高められたDスコアを有する演技を評価する」といった指針のもとに採点にあたった。競技会を重ねる毎に各選手は高難度の力技を多く実施し、Dスコアのアップに努めてきた。その中でも一演技中に複数のE、F難度の力技や終末技を実施する選手が増えてきたことは特筆すべき点である。しかしながら、実施については曖昧な捌きも多く、例えば、肩の位置が輪よりも高い中水平支持（水平支持として判定）や、支持局面がみられるホンマ十字懸垂（B+B）、静止のみられない（力）静止技や倒立（不認定）、腰が大きくまがった開脚水平支持（難度不認定）などが散見された。

Eスコアについては、力静止技での姿勢の乱れや逸脱、静止時間不足の減点が多くみられた。静止時間に関しては、高難度の力静止技だけでなく、単純な脚前挙支持や力倒立といった技においても、減点対象となったケースもあった。また、不明瞭な捌き方をしたことにより、一つの技で複数の減点（「持ち込み方」「姿勢」「角度」「握り」「静止時間」など）をともなった演技も少なからず存在した。なお、2秒以上の逆懸垂や、技の前後での肘まがりに関しては、多くの選手が意識的に改善しており、減点対象となる演技は減少してきた。

□ 跳馬

Dスコア 5.6以上の跳越技を実施する選手が増えてきた。中でもロペス、ヨー2の跳越が増えた。また、さらに1/2ひねりを加えた6.0の跳越技も見受けられたが、ひねり不足、着地の準備ができていないものがほとんどで、競技会で使う習熟レベルにはまだ達していない状況であった。

ロペス、伸身カサマツ5/2ひねりの実施において、着手時での側方姿勢が明確に確認できず、前方系で手がずれているだけの実施が多く見られた。1本のみ跳越を採用する競技会では、実施減点だけで特に問題はないが、2本の跳越が必要な種目別では、2.0のNDに抵触となる可能性があった。

ローチェ、ドラグレスク、リ・セグエンのような回転系の技においては、雄大性はあるものの、ひねり系の技に比べるとつま先や脚の開きなどの減点箇所が多数みられ、Eスコアの観点からは改善の必要がある実施が多かった。

□ 平行棒

長懸垂系と逆懸垂系が同じ技のグループとなり、また棒下系の技数が制限されたことも影響し、モイやバブサー、ティッペルトを構成に入れた演技が増えた。その結果、器械の端から端までを使用した演技も見られるようになった。また、膝をまげたモイ(B難度)は、カウントされる10個の技に入らず、終末技などへのつなぎとして用いられるケースもあった。このグループⅢの統合により演技の傾向として、ディアミドフ系、ヒーリー、ピーターズ、マクーツなどグループⅠの技が5つ目まで取り入れられた構成が多く見られた。

それに対して、難度判定が変更になったシャルロの実施はヒーリーにつなげることにより難度が高くなるケースも含め減少した。シャルロ～ヒーリーの組み合わせの実施は数件であった。

グループⅡでは難度が格上げされた前振り上がりひねり倒立の実施が見られたが、洗練された良い捌きであった。

一方で、腕支持でバーを受ける技を多用する演技では、その後のつなぎに前振り上がり～支持後ろ振り倒立も増え、演技が長くなるとともに、実施減点も多くなる傾向であった。

終末技は後方屈身2回宙返り下り(D)、前方かかえ込み2回宙返り下り(E)、前方かかえ込み2回宙返りひねり下り(F)の3つが大勢であった。主要大会では徐々にではあるが、前方系のE難度、F難度の実施が増えたのは良い傾向であった。ただし、空中姿勢、脚開き、着地の準備、着地姿勢(高い位置での着地)など複数の箇所が減点が生じる実施が多かった。

最後に採点間の器械の準備時間については、演技が終了してから得点が出されるまで60秒から90秒を想定しているが、これを超えて準備にかかる状況が散見された。

□ 鉄棒

同一グループ技の組み入れが5つまでとなり、種目の特性上手放し技の多い演技が期待されたが、実際にはグループⅢの技で難度を積み上げる選手が非常に多かった。組合せ加点も、予想したよりはかなり少ない実施数であった。理論上はベスト10に入らない6つ目以降の手放し技で組合せ加点を得ることができるが、世界的にもそのような演技は例を見るのがなかった。種目別で高得点を狙う場面では、数名の選手が高難度の手放し技を多用して高いDスコアを獲得していた。

アドラー系の技は2回を超えて実施された場合、落下に至る経緯によってはカウントするケースがあった(終末姿勢が認められた場合や落下する前に懸垂状態が見られた場合)。

Eスコアでは、減点を多く受けるひねり系の技の使用を避ける選手と、今まで通りに多用している選手と、作戦の二極化が顕著に見られた。アドラーひねり系の技の成立が「90°以上」と改訂されたこともあって、不認定となるケースは減少したが、担いで潰れた実施や、落ちるように水平を下回る実施では不認定とした。

張力計を使用する選手・所属がかなり増えたため、アップ時間が長くなる傾向を強く感じた。またドライバーが床に散乱しているのは競技上好ましくない状況であった。

4. 2017年Dスコアランキング

2017年の国際大会、国内大会の個人総合やNHK杯を対象に各種目のDスコアランキングを掲載する。

対象大会は世界選手権、ワールドカップシリーズ、チャレンジカップシリーズ、その他主要な国際大会、強豪国国内の主要競技会、日本国内での主要競技会である。該当選手の最も高いDスコアが複数の大会で同スコアがある場合は、一競技会のみ取り上げた。

世界の状況を把握し、現場での目標の指標のひとつとして参考にして頂きたい。

◇ 発表された競技会と省略記載

競技会	記載	競技会	記載
世界選手権 (予選)	WGC 予	全日本個人 (トライアル含)	AJ 個
世界選手権 (種目別)	WGC 種	NHK 杯	N 杯
世界選手権 (個人総合決勝)	WGC 個	全日本種目別	AJ 種
ワールドカップ・メルボルン大会	Melbourne	ワールドカップ・ドーハ大会	Doha
ワールドカップ・バクー大会	Baku	ワールドカップ・コトブス大会	Cottbus
ワールドカップ・シュツットガルト	Stuttgart	全日本インカレ	インカレ
チャレンジカップ・Varna	Varna	全日本シニア	シニア
チャレンジカップ・Paris	Paris	全日本団体	AJ 団
チャレンジカップ Ljubljana	LJU	アジア選手権大会	A・C
チャレンジカップ Szombathely	SBH	中国運動会 (国内大会)	NC 中国
2017 ヨーロッパ選手権	E・C	豊田国際	TOYOTA
ユニバーシアード大会・台湾	UNIV	英国大会 (国内大会)	NC 英国

※世界ランキングで日本人が国際大会で発表の場合は日本、国内大会の場合、所属先で表記

【個人総合】

世界ランキング

Rk.	選手	所属	FX	PH	SR	VT	PB	HB	AA	競技会
1	VERNIAIEV O	UKR	6.2	6.4	6.1	5.6	6.7	5.7	36.7	WGC 個
2	LARDUET M	CUB	6.0	5.8	6.1	5.6	6.4	6.3	36.2	WGC 予
3	LIN Chaopan	CHN	6.2	5.8	5.6	5.6	6.4	6.2	35.8	WGC 個
4	白井 健三	日本	7.2	5.3	5.7	5.6	6.0	5.9	35.7	WGC 個
5	BELAVSKIY D	RUS	5.8	6.4	5.5	5.6	6.4	5.8	35.5	WGC 予
6	CALVO M J	COL	5.8	6.3	5.5	5.2	6.5	6.1	35.4	WGC 個
6	加藤 凌平	コナミスポーツ	6.2	5.8	5.5	5.6	6.1	6.2	35.4	シニア
8	XIAO Ruoteng	CHN	5.9	6.1	5.7	5.6	6.0	6.0	35.3	WGC 個
8	山室 光史	コナミスポーツ	5.7	6.2	6.2	5.6	6.5	5.1	35.3	N 杯

日本人ランキング

Rk.	選手	所属	FX	PH	SR	VT	PB	HB	AA	競技会
1	白井 健三	日本体育大学	7.2	5.3	5.7	5.6	6.0	5.9	35.7	WGC 個
2	加藤 凌平	コナミスポーツ	6.2	5.8	5.5	5.6	6.1	6.2	35.4	シニア
3	山室 光史	コナミスポーツ	5.7	6.2	6.2	5.6	6.5	5.1	35.3	N 杯
4	萱 和磨	順天堂大学	5.6	6.5	5.7	5.2	6.3	5.8	35.1	AJ 個
4	野々村 笙吾	セントラル	5.7	5.7	6.2	5.2	6.4	5.9	35.1	N 杯
4	前野 風哉	鹿屋体育大学	5.8	6.1	5.8	5.6	5.7	6.1	35.1	AJ 団

【ゆか】

世界ランキング

Rk.	選手	国名	D スコア	競技会
1	白井 健三	日本	7.2	Melbourne
2	NAGORNY Nikita	RUS	6.7	WGC 予
3	LANKIN Dmitrii	RUS	6.6	Cottbus
4	MARIAN Dragulescu	ROU	6.5	SBH
4	DOLGOPYAT Artem	ISR	6.5	Paris
4	REMKES Christopher	AUS	6.5	WGC 予

日本人ランキング

Rk.	選手	所属	D スコア	競技会
1	白井 健三	日本体育大学	7.2	Melbourne
2	佐藤 巧	徳洲会	6.4	AJ 種
2	五島 誉博	仙台大学	6.4	AJ 種
4	早坂 尚人	順天堂大学	6.3	AJ 種
5	加藤 凌平	コナミ	6.2	AJ 種
5	永吉 雄	日本体育大学	6.2	AJ 団

【あん馬】

世界ランキング

Rk.	選手	国名	D スコア	競技会
1	WHITLOCK Max	GBR	6.9	WGC 種
2	VERNIAIEV Oleg	UKR	6.7	UNIV
3	杉野 正堯	日本	6.6	TOYOTA
3	萱 和磨	順天堂大	6.6	AJ 種
5	亀山 耕平	徳洲会	6.5	AJ 種
5	WENG Hao	CHN	6.5	NC 中国
5	UDE Filip	CRO	6.5	WGC 種
5	TOMMASONE Cyril	FRA	6.5	WGC 種

日本人ランキング

Rk.	選手	所属	D スコア	競技会
1	杉野 正堯	鹿屋体育大学	6.6	TOYOTA
1	萱 和磨	順天堂大学	6.6	AJ 種
3	亀山 耕平	徳洲会	6.5	AJ 種
4	古谷 嘉章	コナミ	6.4	AJ 種
4	今林 開人	セントラル	6.4	AJ 団

【つり輪】

世界ランキング

Rk.	選手	国名	D スコア	競技会
1	YAN Mingyong	CHN	6.4	NC 中国
1	TULLOCH Courtney	GBR	6.4	NC 英国
1	DAVTYAN Vahagn	ARM	6.4	Doha
1	LEI Peng	CHN	6.4	NC 中国
1	YOU Hao	CHN	6.4	NC 中国

日本人ランキング

Rk.	選手	所属	D スコア	競技会
1	長野 託也	朝日生命	6.3	AJ 種
1	野々村笙吾	セントラルスポーツ	6.3	AJ 種
1	岡村 康宏	朝日生命	6.3	N 杯
1	神本 雄也	コナミ	6.3	N 杯
1	足立 大樹	日本体育大学	6.3	N 杯

【跳馬】

跳越技 6.0 実施選手（世界）

	選手	国名	D スコア	競技会	跳越技
1	NINREYES A	DOM	6.0	UNIV	リ・セグアン
1	MEDVEDEV A	ISR	6.0	E・C	屈身ドラグレスク
1	WHITTENBURG D	USA	6.0	WGC 種	リ・セグアン
1	YANG HAKSEOUN	KOR	6.0	WGC 予	伸身カサマツ 5/2 ひねり
1	RADIVILOV I	UKR	6.0	E・C	屈身ドラグレスク
1	白井 健三	日本体育大学	6.0	AJ 種	シライ 2
1	安里 圭亮	相好体操クラブ	6.0	WGC 種	リ・セグアン
1	長谷川瑞樹	鹿屋体育大学	6.0	AJ 個	ヤン・ハクソン
1	小倉 佳祐	早稲田大学	6.0	AJ 種	伸身カサマツ 5/2 ひねり
1	遠藤 幹斗	静岡産業大学	6.0	N 杯	ヤン・ハクソン

跳越技 6.0、5.8 実施選手（日本）

	選手	所属	D スコア	所属	跳越技
1	白井 健三	日本体育大学	6.0	AJ 種	シライ 2
1	安里 圭亮	相好体操クラブ	6.0	WGC 種	リ・セグアン
1	長谷川瑞樹	鹿屋体育大学	6.0	AJ 個	ヤン・ハクソン
1	小倉 佳祐	早稲田大学	6.0	AJ 種	伸身カサマツ 5/2 ひねり
1	遠藤 幹斗	静岡産業大学	6.0	N 杯	ヤン・ハクソン
6	内村 航平	リンガーハット	5.8	WGC 予	リー・シャオペン

【平行棒】

世界ランキング

Rk.	選手	国名	Dスコア	競技会
1	ZOU Jingyuan	CHN	6.8	Doha
2	VERNIAIEV Oleg	UKR	6.7	Stuttgart
3	LIU Rongbing	CHN	6.6	NC 中国
4	NGUYEN Marcel	GER	6.5	E・C
4	LANKIN Dmitrii	RUS	6.5	Stuttgart
4	山室 光史	日本	6.5	N杯

日本人ランキング

Rk.	選手	所属	Dスコア	競技会
1	山室 光史	コナミ	6.5	N杯
2	野々村 笙吾	セントラル	6.4	N杯
2	神本 雄也	コナミ	6.4	AJ 個
2	山本 翔一	朝日生命	6.4	AJ 種
2	千葉 健太	順天堂大学	6.4	AJ 種

【鉄棒】

世界ランキング

Rk.	選手	国名	Dスコア	競技会
1	齊藤 優佑	徳洲会	7.0	AJ 種
2	内村 航平	リンガーハット	6.9	AJ 種
3	BRAEGGER Pablo	SUI	6.8	E・C
4	宮地 秀享	日本	6.7	WGC 個
5	ZHANG Chenglong	CHN	6.6	NC 中国
5	BRETSCHNEIDER Andreas	GER	6.6	Paris

日本人ランキング

Rk.	選手	所属	Dスコア	競技会
1	齊藤 優佑	徳洲会	7.0	AJ 種
2	内村 航平	リンガーハット	6.9	AJ 種
3	市瀬 達貴	朝日生命	6.7	AJ 種
4	宮地 秀享	茗溪クラブ	6.6	AJ 種
5	田中 佑典	コナミ	6.5	AJ 団
6	横井 君宇	日本体育大学	6.3	AJ 団
6	浅野 佑樹	早稲田大学大学院	6.3	AJ 種
6	横山 聖	コナミスポーツ	6.3	AJ 個

5. 2017年版採点規則修正、追加情報

1. 2017年版採点規則正誤表

日本語版 2017年版採点規則の誤植・追加等による訂正

ページ	訂正箇所	誤		正
p121	IV-36	後方かかえ込み3回宙返り下り	⇒	難度表記 <u>G</u> を追加
p161	I-95	前方開脚宙返り支持経過懸垂	⇒	前方宙返り開脚抜き支持経過懸垂
p161	I-100	前方開脚宙返り抜き腕支持	⇒	前方宙返り開脚抜き腕支持
p161	I-101	前方開脚宙返り抜き屈腕支持	⇒	前方宙返り開脚抜き屈腕支持
p167	II-53	後ろ振り上がり前方開脚宙返り腕支持	⇒	後ろ振り上がり前方宙返り開脚抜き腕支持
p177	タジェダ	技番号訂正 III-124	⇒	III- <u>125</u>

2. 2018年1月公表の FIG Code of Points 2018.1月版での変更箇所

(1) 一般条項

該当箇所	変更種	内容
P9 減点表	項目削除	演技中、コーチが選手に話しかける ※P11、コーチの行為にて対応
P9 減点表	項目追加	公式ウォームアップ時間を守らない：決定点から毎回 0.30 減点（審判長によって）
P10 減点表	項目追加	公式ウォームアップ時間を守らない：チーム得点から毎回 1.00 減点（審判長によって）
P21 7-4条 5.d)	文言追加	各種目において、難度表に記載されていない開脚の力技または静止技を実施した場合。
P28 9-2条 13.	文言追加	つり輪において、振動または押し上げから静止姿勢に移る間、肩は最終的な静止姿勢より上げてから持ち込んではならない。
P28 9-2条 17.	表の移動	着地に関する減点表は 16.の後に移動する
P28 9-2条 17.	項目追加 (文章変更)	着地に関して「小さくとぶ」とは、最大でも足ひとつ分の幅・距離を指す。それよりも大きな一歩はどんな場合も、「大きく1歩」として中欠点の減点となる。
P28 9-2条 17.	番号変更	17.に項目を追加した事により、17.の文が 18.にずれる。

(2) ゆか

①ゆか条文

該当箇所	変更種	内容
P34 10-2条-1 c)	文章変更	(項目の文末に次の文を追加) 選手はフロアエリア全面を使用しなければならない。アクロバット技に際して同一対角線の使用回数には制限がない。しかし、各コーナーを使用しなければならない、不使用の場合演技につき一回、D審判による 0.30 のニュートラルディダクションとなる。 最終タンブリングで未使用のコーナーへ向かえば、このコーナーは使用したものとすることができる。

P35 10-2条-2 5.組合せについて (CV).	文章追加	(項目の文末に次の文を追加) 加点のために2つ(以上)の技を組合せる際、不安定な着地で大過失の減点があった場合、または直接とび正面支持隊になった場合は、組合せ加点は与えられない。
P37 10-3条 E 審判の表	文言削除	減点表中の「転倒=1.00」の文言を削除
P37 10-3条 D 審判の表	項目削除	終末技が跳躍技ではない、または認められていない技(転など)で終わる

②ゆか難度表

該当箇所	変更種	内容
I-44・45	文の追加	(難度表内に以下の文を追加) 「これらの技は倒立から行わないでも認定する事ができる」
II-48	技の追加	前方伸身宙返り 7/2 ひねり (ゴシマ) : G 難度
II-60	技の追加	前方かかえ込み 2 回宙返り 3/2 ひねり (ザパタ) : G 難度
III-7・8	文の追加	「後ろとびひねりからのものも含む」

(3) あん馬

①あん馬条文

該当箇所	変更種	内容
P62 11-2条-2 2. 補足説明 a) 一般 a5.)	項目追加	※新しい項目 「1回の旋回で正面横移動(馬端馬背から両把手を越えて逆馬端馬背)」で、D難度を得るためには、把手を使用してはならない。
	項目番号 変更	a5.)より項目番号がずれる a6.) → a7.) a7.) → a8.) a8.) → a9.) a9.) → a10.)
P62 11-2条-2 2. 補足説明 a) 一般 新a6.)	文章追加	(項目の文末に次の文を追加) 落下に関する規定をより明確にするため、全てのグループII・IIIの技は、倒立に上げて開脚での支持に下ろす技を除き、価値を得るためには難度表に掲載された技に続ける必要がある。落下した場合は部分的な価値も与えることはできない。次に続く技が開始された後に落下した場合は、前の技を認定することができる。
P62 11-2条-2 2. 補足説明 a) 一般 旧a9.)	項目削除	以下、すべて削除。 トンフェイは開始/終了の体勢により、4つのタイプに分類される。その内3つのタイプは、終末局面で完全な旋回をもって技の完了とし、難度を認める。(横～縦、縦～横、縦～縦)
P62 11-2条-2 2. 補足説明 a) 一般 新a9.)	文章追加	(項目の文末に次の文を追加) 「ウ・グオニアンの後には、難度表に記載のいかなる技でも続けることができる(ロシアン180°や360°等)」
P62 11-2条-2 2. 補足説明	番号変更	・モギルニー(III-70)は、さらに技を加えても難度の格上げは認めない。 ・ベレンキ(III-76)は、さらに技を加えても難度の格上げは認めない。

P65 1 1-2条-2 3. 特別な繰り返し a)	番号変更 追加	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリッグス (E : III - 41) ・縦向き前移動 (3/3 : 馬端～把手～把手～馬端) (C : III - 45) ・マジヤール (D : III - 46) ・開脚旋回縦向き 3/3 前移動 (E : III - 53) ・ピロゼルチェフ (C : III - 51) ・縦向き後ろ移動 (3/3 : 馬端～把手～把手～馬端) (C : III - 57) ・シバド (D : III - 58) ・開脚旋回縦向き 3/3 後ろ移動 (E : III - 65) ・縦向きとび後ろ移動 (馬端～馬端) (E : III - 59)
P66 1 1-2条-2 3. 特別な繰り返し b)	番号変更	ロシアン転向技は、終末技を含めて演技中2回まで認めるものとする。ロシアン転向を含む一把手上で行うコンバインや、移動を伴うクロル、ウ・グォニアン、ロス、トンフェイ等に関してはこの規定を適用しない。(III-87、88、89、81、82、94、95)

②あん馬難度表

該当箇所	変更種	内容 (移動先)
II-27	技の追加	両把手を挟んで横向き(開脚)旋回ひねり (ケイハ2) : C 難度
II-30	技の追加	両把手を挟んで横向き(開脚)旋回 1 回ひねり (ケイハ) : F 難度
II-69	技名の追加	ベルトンチェリ
III-47	技番号移動	III-53
III-59	技番号移動	III-65
III-59	技の追加	縦向きとび後ろ移動 (馬端～馬端) (カルバノフ) : E 難度
III-63	技番号移動	III-69
III-64	技番号移動	III-70
III-70	技番号移動	III-76
III-75	技番号移動	III-81
III-76	技番号移動	III-82
III-81	技番号移動	III-87
III-82	技番号移動	III-88
III-83	技番号移動	III-89
III-88	技番号移動	III-94
III-89	技番号移動	III-95

(4) つり輪

①つり輪条文

該当箇所	変更種	内容
P91 1 2-2条-2 2.	文章追加	グループIIやIIIを連続して4回続けることはできず、D審判によって難度は認定されない。3連続の後にグループIのB難度以上の技が入れば改めて3連続が可能である(ただし、け上がり・後方け上がり系、およびその同一枠の技を除く)。このB難度以上の振動技はカウントされる10技内でかつ同一グループ内で上位5技以内に含まれていなければならない。行われたグループII・IIIの技は全て、カウントされる10技内であってもなくても、また技術欠点により不認定になったとしても、この項目に抵触するものとする。

P91 12-2条-2 3. 特別な繰り返し c)	項目追加	基本的な支持姿勢である脚前挙支持と脚上挙支持は、違った力技だと考えられるため、この特別な繰り返しの項目には当てはまらないものとする。よって前振り上がり脚前挙支持と前振り上がり脚上挙支持を両方実施することができる。しかし「終末姿勢が同一の力静止技は各グループで1技だけ」とする制約により、例えばけ上がり脚前挙支持と前振り上がり脚前挙支持を実施することはできない。
P92 12-2条-2 4. 補足説明 f)	文言削除	「停滞」を削除 ヤマワキやジョナサンで完全な支持や停滞がみられた場合
P92 12-2条-2 4. 補足説明 g)	項目追加	「輪の高さで前方宙返り直接十字懸垂」で持ち込む際に45°以上の角度の逸脱は難度を認定しない。また意図した技とは異なるため、部分的な難度も与えられない。 (以降、項目番号がずれる)
	項目番号 変更	g) より項目番号がずれる g) → 新h) h) → 新i) i) → 新j) j) → 新k) k) → 新l) l) → 新m) m) → 新n)
P92 12-2条-2 4. 補足説明 新n)	文言追加	演技には1つの振動倒立技(2秒)が必要であり、カウントする10技に入っていないなければならない (ジュニア: 8技) 。

②つり輪難度表

該当箇所	変更種	内容(移動先)
II-23	技の追加	懸垂から伸腕で引き上げ脚上挙十字懸垂(2秒) (コラック) E 難度
II-113	技の追加	ゆっくりと前方伸腕伸身支持回転十字懸垂経過中水平支持 (2秒)(ファム2): E 難度
IV-42	技の追加	後方屈身3回宙返り下り(ウィッテンバーグ): H 難度
IV-39	技番号移動	IV-45
IV-40	技番号移動	IV-46
IV-41	技番号移動	IV-47
IV-42	技番号移動	IV-48
IV-45	技番号移動	IV-51
IV-46	技番号移動	IV-52
IV-48	技番号移動	IV-54

(5) 跳馬

該当箇所	変更種	内容
跳越番号 110	価値点変更	3.6
跳越番号 111	価値点変更	4.0
跳越番号 230	価値点変更	3.6
跳越番号 342	価値点変更	3.6
跳越番号 574	技名追加	「シライ3」

(6) 平行棒

①平行棒条文

該当箇所	変更種	内容
P151 1 4-2条-1 6.	文言訂正	演技実施の減点に関しては、第9章および9-4条と1 4-3条における減点表を参照のこと。
P152 1 4-2条-2 3. 補足説明 g)	項目追加	バブサーの実施について、バーを握る際は水平位で肩角度を開き、伸身で実施すべきである。バーを握る際に、身体が水平位から45°以上の逸脱、または90°の肩角度があった場合は、技の価値が与えられず、大欠点の減点となる。
P152 1 4-2条-2 4. 特別な繰り返し a)	技名訂正 文章追加	前方 5/4-宙返り開脚抜き腕支持と屈腕支持、または支持経過懸垂や直接懸垂になる技 補足としてⅢ-47、58、59、65は一括してこの規則に該当する。
P152 1 4-2条-2 4. 特別な繰り返し c)	番号追加	最大2回までの棒下宙返り（逆上がり）倒立技 （Ⅲ-106、107、108、114、119、120、123、124、130、131、136）
P152 1 4-2条-2 5.	文言訂正	技として認められない原則やDスコアに関する他の詳細項目は第7章および9-4条、1 4-3条の減点表を参照のこと。
P153 平行棒特有の減点	追加	「公式ウォームアップ時間を守らない」の項目は「D審判」の項目表として独立して巻頭に配置。
P153 平行棒特有の減点	項目追加	（「E審判」の減点が続く） ・モイ、後方車輪、水平位よりも早く脚がまがる：小・中欠点 ・バブサー等、水平位でバーを握り懸垂になる技で、け上がりの際の膝がまがる：中欠点

②平行棒難度表

該当箇所	変更種	内容（移動先）
I-9	技の追加	前振り開脚抜き直接懸垂（バボス）：C難度
II-3	技の追加	前振り上がり開脚抜き懸垂（ムンテアン）：C難度
III-42	技の追加	懸垂前振り片腕支持3/4ひねり単棒倒立経過、軸手を換えて3/4ひねり支持（パウマン）：F難度
III-123	技の追加	棒下宙返り、かかえ込み姿勢でひねり腕支持（ギャニオン）：C難度
III-124	技の追加	棒下宙返り、伸身姿勢でひねり腕支持（ギャニオン2）：D難度
III-121	技番号移動	III-127
III-122	技番号移動	III-128
III-128	技番号移動	III-134

(7) 鉄棒

①鉄棒条文

該当箇所	変更種	内容
P188 1 5-3条 鉄棒特有の減点	削除	「D審判（ニュートラルディダクション）」の表
P188 1 5-3条 鉄棒特有の減点	項目追加	エンドーやシュタルダーの開始時の倒立位からの逸脱： 小・中・大欠点（難度は認定）

②鉄棒難度表

該当箇所	変更種	内容（移動先）
Ⅲ-86	技番号移動	順手背面懸垂前振り上がりひねり支持（オノ）（Ⅰ-74へ）
Ⅱ-46	〃	Ⅱ-40
Ⅱ-47	〃	Ⅱ-5
Ⅱ-52	〃	Ⅱ-58
Ⅱ-54	〃	Ⅱ-60
Ⅱ-57	〃	Ⅱ-39
Ⅱ-59	〃	Ⅱ-71
Ⅱ-60	〃	Ⅱ-72
Ⅱ-63	〃	Ⅱ-45
Ⅱ-66	〃	Ⅱ-90
Ⅱ-66	技の追加	ゲイロード1回ひねり（コーディノフ）：G 難度
Ⅱ-69	技番号移動	Ⅱ-51
Ⅱ-72	〃	Ⅱ-54
Ⅱ-83	〃	Ⅱ-89
Ⅱ-89	〃	Ⅱ-83
Ⅱ-90	〃	Ⅱ-96
Ⅱ-96	〃	Ⅱ-102
Ⅲ-57	技の削除	シュタルダーとび大逆手持ち換え

6. 2018年度内規

□ ケガや出血等での対処

競技中に落下等の原因によりケガや出血等が見られた場合、状況により審判長、医師らの判断により演技の続行または中止を決定する場合がある。

□ 次の項目は以下に示す競技会以外の大会で適用する。

- ・第72回全日本体操競技選手権大会（個人総合選手権、種目別選手権、団体選手権）
- ・第57回NHK杯体操
- ・2018全日本ジュニア体操競技選手権大会（1部）
- ・第72回全日本学生体操競技選手権大会
- ・2018全日本シニア体操競技選手権大会（1部）

① 終末技グループの要求難度について

- ・A 難度の終末技・・・+0.10
- ・B 難度の終末技・・・+0.20

② 下記の宙返り下りはA 難度とする

- ・つり輪、平行棒、鉄棒の前方・後方のかかえ込み宙返り下り

□ マナー・モラルについて

採点規則に記載されていない競技会における演技中や演技の前後、競技場内での行動や振る舞いについて、マナー・モラルの観点から、以下の内容を守っていただきますようお願い申し上げます。

① 着地の際のガッツポーズ

演技の終了を示すポーズと礼をするまで演技の一部です。着地直後、演技の終了を示すポーズ

ズを示す前にガッツポーズをとることは控えてください。

② 平行棒での事前調整

跳馬終了後、種目移動前の事前の準備や演技後での器械の調整は3名までと致します。また、選手が着地のポーズをとっている最中に次の選手やコーチがマット上に上がることをのらないようお願いします。他の種目についても同様とします。

③ マグネシウムや霧吹き、調整器具（ドライバー等）の使用方法

準備の際、マグネシウムをばら撒くように使いマットを白く汚したり、霧吹きや雑巾を投げるなど乱雑に扱うシーンが見受けられます。また、手に大量にマグネシウムを付けた後、叩いたり、マット上で擦り落とす光景も見られます。器械器具や消耗品を問わず、道具の取り扱いには注意を払うようお願いします。

平行棒では、霧吹きや雑巾をマット上に置いたまま、演技をすることは避けて下さい。

鉄棒において、ワイヤー調節のためのドライバー等がゆかの上に乱雑に置かれている場合があります。演技前に片付けるか、所定の場所に置くようにして下さい。

④ ローテーション時の移動、整列

種目移動は、出来るだけ速やかにお願いします。整列は全種目とも D 審判席の前をお願いします。また、整列直前での器械やプロテクターの調整は控え、他種目で整列している選手を待たせないようにして下さい。

⑤ 採点間や待機時（ウォームアップ時以外）のマット上での練習

特別に許可された大会を除き、マットや跳馬の助走路での柔軟や倒立は控えてください。

⑥ 頭髪や服装、タトゥー

国際大会でタトゥーを入れている他国の選手が見受けられます。文化・風習の違いはありますが、日本においては禁止と致します。また、多くの方が不快に感じる奇抜な頭髪や服の着こなしなどは避けてください。体操競技は美を競うスポーツです。アピールは美しい演技で行って下さい。

⑦ 携帯機器の使用

携帯機器をアリーナ内で使用することは禁止されています。競技中は使用を避けて下さい。競技会の様子や成績などについて、SNS 等による情報発信は不特定多数が見る場への投稿であることを十分に理解し、「著作権」や「肖像権」も慮り責任をもって対応して下さい。取り扱いには十分ご配慮願います。近年の簡易な通信伝達手段の普及により、様々な情報が瞬く間に伝播されています。大変便利な反面、真偽が判らない情報も制限なく発信されており、選手に関することや発信元が不明なルールに関することなども見受けられます。そのような情報には惑わされることないようにするとともに発信源にならないようご注意下さい。

※ その他、選手・コーチ・審判員は、競技会場内外における自身の行動にもご注意いただき、マナーアップへのご協力をお願い致します。

7. タイ・ブレイクについて

下記は 2018 年 FIG 競技規則を抜粋した内容である。競技会における同点の扱いについては競技会ごとの申し合わせ事項であり、参考としてこの一部または全部を準用・適用するのも主催団体の裁量であるが、必ず競技会前に確認しておく事が望ましい。

2018 年版 体操競技 タイ・ブレイク規則

タイ・ブレイク規則（オリンピック、世界選手権および FIG 公認の全ての大会に有効）
全ての予選・決勝競技においていかなる場合も、同点の場合は下記の通り順位が決定される。

第 1 条 個人総合の予選・決勝競技

◇個人総合競技において同点の場合は、下記基準に準じ順位が決定される。

1. 競技で獲得した得点の内、男子では高い方から 5 種目、女子では高い方から 3 種目のスコアの合計が高い方を上位とする。
※それでも同点の場合、種目数を減らし、順次決定する。
2. 依然として同点の場合、全種目の E スコアの合計が最も高い選手を上位とする。
3. 依然として同点の場合、全種目の D スコアの合計が最も高い選手を上位とする。
それでも同点の場合、これらの選手を同順位とする。

第 2 条 種目別の予選・決勝競技

◇種目別競技において同点の場合は、下記基準に準じ順位が決定される（跳馬は除く）。

1. E スコアが高い選手を上位とする。
2. 依然として同点の場合、D スコアが高い選手を上位とする。
3. 依然として同点の場合、これらの選手を同順位とする。

◇種目別跳馬の競技で同点の場合は、下記基準に準じ順位が決定される。

1. 二本の跳越の得点の合計が高い方の選手を上位とする。
2. 依然として同点の場合、どちらかの跳越で最も高い E スコアを有する選手を上位とする。
3. 依然として同点の場合、どちらかの跳越で最も高い D スコアを有する選手を上位とする。
それでも同点の場合、同順位とする。

第 3 条 団体総合の予選・決勝競技

◇団体総合の競技で同点の場合は、下記基準に準じ順位が決定される。

1. 獲得したチーム得点の内、男子では高い方から 5 種目、女子では高い方から 3 種目のスコアの合計が高い方のチームを上位とする。
※それでも同点の場合、種目数を減らし、順次決定する。
2. なお同点の場合は、これらのチームを同順位とする。

8. おわりに

審判委員会
体操競技男子審判本部
本部長 高橋 孝徳

2017 年は世界選手権モンテリオール大会において白井健三選手が個人総合銅メダル、ゆかと跳馬で金メダルと、3 個のメダルを獲得しました。ユニバーシアード・台湾大会では、前回に続き団体優勝を飾るとともに、個人総合、種目別とあわせて8つのメダルを獲得しました。選手たちの成果を評価するとともに、今後のより一層の活躍を期待いたします。

昨年、ルールが改訂され1年が経過しましたが、今まで以上に E スコアの採点は厳格に、かつルールに則り機械的に減点する傾向が見受けられます。世界選手権での E スコアは姿勢欠点、向きや角度、静止技での位置や時間、着地での安定性と姿勢位置等、全ての技や捌き方が厳しく評価されていました。種目によっては、E スコアで8点台を獲得することも容易でなくなり、D スコアの高さを維持しつつ演技の出来栄を求めることが今まで以上に困難になっています。

世界選手権において、日本は白井選手がひとりで3個のメダルを獲得しましたが、中国は4選手で5つのメダルを獲得し、チーム全体の層の厚さを見せつけました。

いままでの中国との勝負を振り返りますと、高い D スコアを武器にする相手に対し、日本は演技の質で臨む戦い方でした。しかし、モンテリオール大会での中国は、演技の出来栄にも気を配った実施が見られ、個人総合優勝の Xiao Ruoteng 選手の E スコアの合計は参加選手中で最も高い得点をマークし、平行棒の ZOU Jingyuan 選手も E スコア 9 点台の演技を実施するなど、質の向上が顕著にみられました。

日本が一步先へ進むためには、D スコアの向上とともにさらなる演技の安定性と質を高めることが求められます。実施に際しては、減点なく技を捌くだけでなく、見るものを魅了する表現の仕方までを意識し、取り組んでいくことが必修条件です。コーチ、選手の今現在のたゆまぬ努力に敬意を表しつつ、より一層の研鑽を積んでいただきたいと存じます。

昨年秋より FIG からの通達によるニュースレター # 32、# 33、Code of points (2018.1 月 version) が続けて発表されましたが、情報の統一性にいくつか矛盾や混乱が生じています。確認できた情報は掲載いたしました。今後、追加・修正情報が発表されましたら、適宜伝達いたします。

「難度認定及び演技実施の確認事項と FIG 通達」は別刷りで掲載しました。本情報の 2017 年版採点規則修正、追加情報と併せて、現場や各競技会で活用してください。

2018 年より、中学校適用規則と全国ブロック選抜 U-12 大会適用規則が、一般規則と同様の形式となる D・E 採点方式を採用することとなりました。技数や要求する項目は、対象年齢の成長段階を考慮し設定してあります。いままでの形式から大きな変革となりますが、「美しい体操」を最優先することには変わりはありません。採点に関する詳細は 2 月に開催した全国代表審判員研修会において、各都道府県の代表者に伝達してあります。このルールを採用する競技会に関わる審判員は所属する地域での情報共有を密にし、採点業務に臨んでください。

2018 年度の新しい事業としてルール・クリニックを 2019 年 3 月 2、3 日に味の素ナショナルトレーニングセンターにて開催いたします。ここでは初級者編と上級者編の 2 つのクラスを設け、①ルールの理解と採点方法の確認、基本的な演技の採点実習、②採点業務のスキルアップ（様々な演技の D スコア、E スコアの採点実習）を研修します。参加については審判員だけでなく、審判資格の有無にかかわらずコーチ、選手、その他ご関心のある方に門戸を広げ、体操競技男子に関わる全ての方を対象に受け付ける予定です。夏以降に募集要項を HP に通達致しますので、奮ってご参加ください。

今年より 2020 年オリンピック東京大会への予選が始まります。コーチ、選手の皆さまにとって、一日一日が貴重な時間になっていると推察いたします。選手皆さまの飛躍を祈願いたします。

審判員は本情報を精読し審判活動に活用してください。日々の研鑽を励むとともに、公平・公正な採点業務を心掛け、競技会に臨んでいただきますよう、お願い致します。